

報道機関各位

## 令和4年度農業功績者表彰受賞・農業名人認定祝賀会の開催について

上伊那農業委員会協議会主催「第19回 明日に翔け！上伊那ファーマーズの集い」の中で、上伊那農業功績者表彰及び農業名人認定証の授与が行われます。

箕輪町では以下の方が農業功績者・農業名人認定者に決まりました。

ファーマーズの集い終了後、町農業委員会主催の祝賀会を開催します。

### 1 農業功績者 丸山 泰正（まるやま やすまさ）さん（大出）

長野県西部箕輪土地改良区の役職や町農産物生産組合初代組合長、深沢圃場整備実行委員長などを歴任されました。

### 2 農業名人認定者 唐澤 正成（からさわ まさしげ）さん（上古田）

「ほうきづくり名人」 上古田でほうきづくりを始めて50年になります。

### 第19回 明日に翔け！上伊那ファーマーズの集い

日 時 令和5年2月16日（木） 午後1時30分から4時まで

場 所 上伊那農業協同組合本所フラワーホール

### 農業功績者表彰受賞・農業名人認定祝賀会

日 時 令和5年2月16日（木） 午後4時45分から

場 所 ながた荘

添付資料  有  無



農業委員会事務局  
(局長) 高橋 英人 (担当) 唐澤 智大  
電 話 : 0265-79-3170 (直通)  
F A X : 0265-79-0230  
E-mail : nougyou@town.minowa.lg.jp

## 1 農業功績者表彰

農業に従事し、農業政策に係る顕著な功績、新技術の開発普及、研究発明考案、農業環境の改善等について、特に優れた功績のあった個人又は団体を表彰します。

・上伊那で5人・1団体

(伊那市2人、駒ヶ根市1人、飯島町1団体、南箕輪村1人)

### 農業功績者

箕輪町 <sup>まるやま</sup>丸山 <sup>やすまさ</sup>泰正さん(大出) 93歳

上伊那農業高等学校卒業後、地元で農業に従事。

昭和35年、町大出地区で農地集約委員会を立ち上げ、副委員長を務める。農地集約委員会では作物別に農地の区域分け(今で言うゾーニング)を行う。町機械化センターではオペレーターを務めた。



昭和48年からは長野県西部箕輪土地改良区の総代を4期16年、続いて同監事を1期4年、同理事を1期4年、長野県伊那西部土地改良区連合議員を1期4年務め、28年間の長きに渡り西部地域の基盤整備と農業振興に従事する。

平成8年からは大出地区の農業者で開設をしていた大出農産物直売所「ふれあい市場」の運営委員長を務める。また、町が平成8年度に策定した「箕輪町農業公園構想」に基づき「箕輪町農産物生産組合」を立ち上げ、初代組合長として組織強化と拡大定着を進める。平成9年に町が農産物直売所「愛来里(あぐり)」を開設した際は施設運営を農産物生産組合が行い、約200人の組合員らが野菜や果物を持ち寄り直売所で販売。また付近の農地で梅のもぎ取り、芋の掘り取り、野沢菜まつりなど各種イベントを企画実施した。直売所の売上高は多い時に5千万円を超え、地産地消と農業振興に寄与した。町の農産物直売所は大出地区の「みのわテラス」敷地内にある直売所「ファームテラスみのわ」として現在も続いている。

また、大出地区で課題となっていた深沢地区の圃場整備では、平成9年から深沢圃場整備実行委員長を務め、平成12年に圃場整備が完了した。

箕輪町農業委員を昭和51年から2期6年、箕輪町農業協同組合理事を昭和57年から3期9年務める。

## 2 農業功績者感謝状贈呈

農業委員会活動に協力し、著しい功績があった者に、感謝状を贈呈します。

・上伊那で2人(辰野町1人、飯島町1人)

農業功績者感謝状贈呈者 箕輪町は本年度該当者なし

### 3 農業名人認定証授与

農業・農村の振興対策として、村づくり・地域づくり・人づくりの重要性が広く認識されるなかで、地域の農村文化や歴史等に誇りを持ち、そこに伝わる知恵や技術を伝承していくことが重要です。

このため、上伊那在住で農業関係等について腕自慢の方、あるいは後世に残したい技術等の伝達者を「農業名人」に認定し、その技術等を長く継承するとともに新たなライフスタイルを創造してまいります。

#### 農業名人認定者

箕輪町 <sup>からさわ</sup>唐澤 <sup>まさしげ</sup>正成さん（上古田）87歳

#### 「ほうきづくり名人」

40代でバス会社を退職すると、同じ地区に住む先輩であるほうき作り名人に作り方を習うこととなり、名人の姿に魅了され、ほうき作り職人の道を歩み始める。現在まで50年近く続けている。

夏場に自分の畑で原料のほうき草を育てる。6月の夏至のころに種をまき、8月の下旬に刈り取りして種を取り、日陰干しにする。ほうき作りの作業は冬場の農閑期の仕事である。ほうきは、ほうき草の下半分をゆで柔らかくしてから編むが、編む際には節を見てほうき草を選別しなければならない。この選別を上手にやらないと掃きにくいほうきになってしまうという。また、編む時にかかりの力をかけないと網目が不揃いになって商品にならない。唐澤正成さんが作ったほうきは網目がきちんとしていて美しい。ほうきの柄は自分で竹を加工し、色塗りしている。このような工程があるため、1日に作れるほうきは2本程度（年間では150本程度）という。作成したほうきは上古田地区で秋に開催される赤そばまつりでかつては販売していたが、現在は作成本数も少ないため販売していない。

唐澤正成さんに後継者はいないが、2021年から町の公民館講座で住民を相手にほうきづくりを教えている。今まで教えた生徒は24人ほどになる。

今後は公民館講座などを通じて後継者へ技術を伝えていきたいと考えている。

